

2023年2月3日(金)16:00~17:00
2023年3月期第3四半期 決算説明会

【2023年3月期 第3四半期決算公表(P0)】

CFOの重田です。

本日は、お忙しい中ご参加頂き、誠に有難うございます。

まず私から、第3四半期の経営成績及び通期業績予想等につきご説明します。

その後、経理部長の栗原より、決算の詳細についてご説明します。

当第3四半期においても、当社の強みであるグローバルに地域分散された、広がりを持つ事業ポートフォリオから、引き続き力強い収益を生み出し、当期利益・基礎営業キャッシュ・フロー共に、3カ月間の決算としても、9カ月間累計としても過去最高を更新しました。

この好調な進捗を踏まえ、通期業績予想を1兆800億円に上方修正します。また積極的な株主還元を継続し、増配と共に、1,000億円の追加自己株式取得を行います。

【経営成績サマリー(P3)】

それでは、プレゼンテーション資料3ページをご覧ください。

当第3四半期の経営成績サマリーについてご説明します。

基礎営業キャッシュ・フローは前年同期比983億円増加の9,612億円の獲得、四半期利益は前年同期比2,075億円増益の8,408億円となり、第2四半期決算時に公表しました従来予想に対しても、順調な進捗となりました。

この順調な進捗を踏まえて、通期業績予想を上方修正します。従来予想対比で、基礎営業キャッシュ・フローは700億円増加の1兆2,000億円、当期利益は1,000億円増加の1兆800億円とします。

株主還元に関しては、期末配当を1株あたり70円に引き上げ、年間では135円を予定します。また、この半期70円をベースに、来期の年間配当は1株あたり140円を下限とします。現在実行中の1,400億円の自己株式取得金額について、取得金額の1,000億円追加と、実施期間延長を決定しました。これら自己株式の消却も着実に実行します。

【従来予想に対する進捗率(P4)】

4 ページをご覧ください。

従来予想に対しては、ご覧の通り、各セグメントで順調な進捗率となっております。

個別事業においては、原料・素材等のトレーディング、自動車事業、ヘルスケア事業は、堅調な業績を継続しています。

エネルギーセグメントにおける LNG トレーディングは、上半期にヘッジ目的のデリバティブ取引等に関わる損失を先行認識しました。当四半期においては、ヘッジ取引に対応する現物取引等が実現し、利益貢献しました。

【基礎営業キャッシュ・フロー 通期業績予想修正 (P5)】

5 ページをご覧ください。

冒頭で申し上げました通り、基礎営業キャッシュ・フローの 23 年 3 月期業績予想を 1 兆 2,000 億円に上方修正します。

エネルギーセグメントでは LNG トレーディングにおけるキャメロン LNG 引取数量の増加を主因に 600 億円上方修正しました。全社では従来予想 1 兆 1,300 億円に対して 700 億円の上方修正とします。

【当期利益 通期業績予想修正 (P6)】

6 ページをご覧ください。

当期利益の 23 年 3 月期業績予想も 1 兆 800 億円に上方修正します。

エネルギーセグメントでは LNG トレーディングにおけるキャメロン LNG 引取数量の増加を主因に 800 億円、金属資源セグメントでは商品市況を主因に 150 億円上方修正しました。全社では従来予想 9,800 億円に対して 1,000 億円の上方修正とします。

【キャッシュ・フロー・アロケーション実績 (P7)】

7 ページをご覧ください。

当第 3 四半期累計のキャッシュ・フロー・アロケーション実績についてご説明します。

キャッシュ・インは、基礎営業キャッシュ・フロー 9,610 億円と、豪州原料炭事業 SMC、機械インフラ、生活産業セグメントにおける FVTOCI 金融資産、並びにメキシコ Falcon 発電事業売却などの資産リサイクル 3,070 億円を合わせて、1 兆 2,680 億円となりました。

一方、キャッシュ・アウトは、投融資 4,910 億円と、株主還元 2,990 億円を合わせて、7,900 億円となりました。

【キャッシュ・フロー・アロケーション(見通し) (P8)】

8 ページをご覧ください。

先ほどお伝えしました当期業績予想の上方修正を反映させ、中期経営計画 3 年間のキャッシュ・フロー・アロケーションをアップデートします。

基礎営業キャッシュ・フローは 3 兆 200 億円に上方修正、キャッシュ・インは拡大する見込みです。投資に 1 兆 5,000 億円、135 円への増配を反映させて配当に 5,200 億円を配分し、マネジメント・アロケーションは 1 兆 7,800 億円となります。

【マネジメント・アロケーション(見通し) (P9)】

マネジメント・アロケーションの 1 兆 7,800 億円は、株主還元、成長投資、財務体質の強化に、バランス良く配分します。

株主還元は、今期第 3 四半期までに決定済の累計 4,800 億円の自己株式取得に加え、新たに 1,000 億円の取得額追加を決定しました。この 1,000 億円の内、3 月末までの取得分を、現中期経営計画期間中の株主還元額とします。

成長投資について、ご説明します。

グローバルに広がりを持つ事業ポートフォリオが、当社の収益力の源泉です。これを活用し、事業を育てる過程で知見を蓄積した事業を展げる取組み、または信頼を深めてきたパートナーとの協業案件といった、既存事業のボルトオン、または周辺事業への投資を、成長投資の中核と位置付け、推進しています。

成長投資への配分は、現中期経営計画期間中の累計で 2,800 億円を見込みます。

更に、来期のキャッシュ・アウトを見込む投資パイプライン案件に進捗がありました。既に公表の通り、エームサービスの完全子会社化に約 700 億円、りらいあコミュニケーションズの公開買付・経営統合に約 600 億円の投資を予定します。

その他にも、現時点で交渉が進捗し、実行確度が相当程度まで高まっているパイプライン案件として、エネルギー・トランジション、天然ガス バリューチェーン強化、ヘルスケア強化、食・ニュートリション バリューチェーン構築に繋がる案件などが控えています。長年培った知見やネットワークといった当社の強みを最大限生かした成長投資は、成

功確度が高く、また事業基盤の強化や周辺事業との事業群形成に直結すると考えます。

また、金利の上昇や市況のボラティリティの高まり等も踏まえ、財務体質を強化するため、手元流動性の確保に一旦充てていく予定です。

【成長投資の進捗状況(P10)】

10 ページをご覧ください。

成長投資の進捗として、昨日発表した国内給食サービス事業者エームサービスの完全子会社化についてご説明します。

エームサービスは、1976年に当社グループと米国アラマーク社の合弁として設立した給食サービス事業会社です。同社はオフィス・工場向けの給食サービスから、病院・医療福祉施設、スタジアムやエンターテインメント施設への給食サービスや施設運営サポートまで事業を拡大してきました。現在、全国約 3,900 ヶ所の事業所を持ち、1 日約 130 万食の給食を提供しています。

22 年 3 月期の売上高は約 1,700 億円となり、売上高ベースでは企業向け給食サービスで 1 位、病院・医療福祉施設向けで 2 位の地位を確立しています。

今回 700 億円の同社株の追加取得による完全子会社化により、中核となる給食サービス事業の更なる強化・拡大を加速し、「食」を通じた健康やウェルビーイングの向上に貢献して参ります。また、給食サービス事業をニュートリション、ヘルスケアなどの事業と組合せ、当社らしいウェルネス事業群の形成を推進して参ります。

【株主還元の推移(P11)】

11 ページをご覧ください。

先ほどお伝えした自己株式取得と年間配当の引き上げを踏まえ、基礎営業キャッシュ・フローに対する現中期経営計画 3 年間累計の総還元性向は 33%を達成する見込みです。

今後も安定的なキャッシュ創出力拡大に応じ、継続的に配当の引き上げを図ると共に、機動的な自己株式取得を実行してまいります。

以上で、私からの説明を終わらせて頂きます。

続いて経理部長の栗原より、第 3 四半期業績の詳細をご説明します。

= 経理部長パート =

【経営成績の詳細(P12)】

経理部長の栗原です。

それでは、当四半期業績の詳細についてご説明します。

【基礎営業キャッシュ・フロー セグメント別前年同期比増減要因(P13)】

13 ページをご覧ください。

まず、基礎営業キャッシュ・フローの前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。

当四半期の基礎営業キャッシュ・フローは、前年同期比 983 億円増加の 9,612 億円の獲得となりました。

金属資源では、原料炭価格の上昇の影響がありましたが、鉄鉱石価格の下落の影響、及び Vale からの配当減少を主因に、775 億円減少の 3,555 億円の獲得となりました。

エネルギーでは、原油・ガス価格の上昇と LNG トレーディングにおけるキャメロン LNG 引取数量の増加を主因に、1,230 億円増加の 2,759 億円の獲得となりました。

機械・インフラでは、自動車・商用車を中心とした関連会社からの受取配当増を主因に、455 億円増加の 1,587 億円の獲得となりました。

化学品では、6 億円増加の 725 億円の獲得となりました。

鉄鋼製品では、関連会社からの受取配当増を主因に、62 億円増加の 154 億円の獲得となりました。

生活産業では、穀物トレーディング等が堅調であった一方、創薬支援ファンドの公正価値評価損を主因に、23 億円減少の 312 億円の獲得となりました。

次世代・機能推進では、7 億円減少の 344 億円の獲得となりました。

その他の要因として、各セグメントに賦課しない経費・利息・税金を主因として 176 億円の獲得となりました。

【四半期利益 セグメント別前年同期比増減要因(P14)】

14 ページをご覧ください。

次に、当四半期利益の前年同期比増減について、セグメント別にご説明します。

当四半期利益は、前年同期比 2,075 億円増益の 8,408 億円となりました。

金属資源では、原料炭価格上昇の影響、及び豪州原料炭事業 SMC 売却益がありましたが、鉄鉱石価格の下落の影響、並びに Vale からの配当減少等を主因に、155 億円減益の 3,554 億円の利益となりました。

エネルギーでは、原油・ガス価格上昇と LNG トレーディングにおけるキャメロン LNG 引取数量の増加を主因に、1,625 億円増益の 1,908 億円の利益となりました。

機械・インフラでは、北米を中心とした自動車・商用車事業の好調を主因に、389 億円増益の 1,311 億円の利益となりました。

化学品では、北米メタノール事業での価格下落・コスト増による減益がありましたが、肥料・肥料原料を中心に価格・販売量が堅調に推移した結果、31 億円増益の 547 億円の利益となりました。

鉄鋼製品では、18 億円減益の 195 億円の利益となりました。

生活産業では、5 億円減益の 423 億円の利益となりました。

次世代・機能推進では、不動産事業における売却益を主因に、75 億円増益の 497 億円の利益となりました。

その他の要因として、各セグメントに賦課しない経費・利息・税金を主因として 27 億円の損失となりました。

【四半期利益 増減要素別前年同期比(P15)】

15 ページをご覧ください。

ここでは、当四半期利益を前年同期と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、LNG・商品デリバティブ・化学品・穀物等のトレーディング、並びに自動車・船舶事業が業績を牽引したものの、鉄鉱石・LNG 事業の配当減、また前年同期 FVTPL 益の反動により、230 億円の減益となりました。

「資源コスト・数量」は、エネルギー上流事業における減価償却費や探鉱費の減少があった一方で、豪州鉄鉱石・石炭事業、及びチリ銅事業における販売数量減、及び数量減に伴う単位コスト増と燃料費・労務費増を主因に、約 410 億円の減益となりました。

「資産リサイクル」は、豪州原料炭事業 SMC 売却益、米国・シンガポールにおける不動産売却益を主因に、約 620 億円の増益となりました。

「市況・為替」は、約 2,070 億円の増益となりました。市況は、鉄鉱石価格の下落による減益 650 億円があったものの、原料炭価格の上昇で約 450 億円、原油・ガス価格の上昇で約 970 億円の増益となりました。為替は、円安を主因として約 1,330 億円の増益となりました。

「評価性・特殊要因」は、約 20 億円の増益となりました。

【年間業績予想 増減要素別従来予想比(P16)】

16 ページをご覧ください。

ここでは、年間業績予想を従来予想と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、LNG・商品デリバティブ等のトレーディング、船舶事業の好調、LNG 事業の配当増を主因に、1,220 億円の増益を見込みます。

「資源コスト・数量」は、豪州石炭・鉄鉱石事業における労働力制約や悪天候による数量減、及び数量減に伴う単位コスト増及び労務費・燃料費増を主因に、約 100 億円の減益を見込みます。

「資産リサイクル」は、約 70 億円の減益を見込みます。

「市況・為替」は、約 130 億円の増益を見込みます。市況は、価格見通しの修正により、石炭で約 80 億円、鉄鉱石で約 60 億円、原油・ガスで約 30 億円の増益を見込みます。為替は、円高を主因として約 80 億円の減益を見込みます。

「評価性・特殊要因」は、ブラジル貨物鉄道事業における固定資産減損等を主因に 180 億円の減益を見込みます。

【財務戦略・ポートフォリオ経営の進化(P17)】

17 ページをご覧ください。

当四半期末のバランスシートについてご説明します。

22年3月末と比較して、ネット有利子負債は0.2兆円増加し、3兆5,000億円となりました。一方、株主資本は約0.5兆円増加の6兆1,000億円となりました。この結果、ネットDERは0.57倍に低下しました。

以上をもちまして、私の説明を終わります。